

会 議 結 果 の お 知 ら せ

第2回宮古市農業振興ビジョン策定委員会を次のとおり開催しました。

令和6年11月11日

農業振興ビジョン策定委員会

- 1 開催日時
令和6年10月15日（火） 午後2時～午後3時50分
- 2 開催場所
シートピアなあと 2階 研修ホール
- 3 議題
(1) 宮古市農業振興ビジョン（案）について
(2) その他
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
産業振興部農林課農政係 電話0193-68-9094

第2回宮古市農業振興ビジョン策定委員会

1 出席者（9名）

平賀昌晃、川戸善徳、門坂道弘、飛澤 隆、小林由紀子、上山則夫、久保田智治
山崎安人、上坂喜和

2 欠席者（3名）

竹野牧子、高田泰義、吉濱未絵

3 事務局出席者（5名）

産業振興部長 岩間 健、農林水産振興次長 飛澤寛一、
産業振興部農林課長 巖岩邦行、産業振興部農林課農政係長 菊地政幸
同係 扇田正幸主査

4 傍聴者

なし

5 議事等

(1) 宮古市農業振興ビジョン（案）について

宮古市農業振興ビジョン（案）について、事務局から説明した。

(2) その他

宮古市農業振興ビジョン意見提出用紙について、事務局から説明した。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【議題(1)「宮古市農業振興ビジョン（案）について」】 (委員) 4ページの3の(1)の④環境負荷の軽減であるが、県計画でも「軽減」を使っているが、法律では結構「低減」を使っているので、「低減」としておくのが無難だと思う。 (委員) 5ページの⑤畜産農家の経営安定と生産拡大について、大項目は農畜産物の生産拡大であり、二つの取り組み自体は問題ないが、タイトルに経営安定と入ると担い手の確保育成の方に見えてしまうと思う。ここは農畜産物の生産振興的な項目なので、経営という側面を入れない方がいいのではないか。 (委員) 資料の構成について、他の部門別計画と同じ形なのか。趣旨の次に、いきなり目標値となっているが、この間に、目指す方向というか、総論的なものがあつた方が良いのでは。 (委員) 近い将来ではなく、孫子につなぐ農業を目指すイメージで、若い世代のやる気があふれるような農業のイメージとしてほしい。 (委員) 新規の方に経験を積ませるため、県外への先進地へ研修などを実施すべき。	(事務局) 軽減から低減に修正します。 (事務局) 本項目は、生産拡大あるいは生産支援という形となるので、再検討します。 (事務局) それぞれにビジョンの特徴があり、目指すところをイメージしていただくのがビジョンです。確かに、いきなり3ページに目標値が出てくるよりは、市としての全体の方向性があつて、農業が目指す基本の方向があつて、最終的に目標値の設定と順番を変えつつ、全体のイメージを表に出すという形を検討します。 (意見) (事務局) 新規就農者に向けた研修は実施しなければならないと考えている。県と共同で実施するなど工夫しながら、実施に向けて検討して

(委員) 品目ごとの売り上げに関する勉強会などはあるが、農業で生活していくため、もっと経営に力を入れた研修をやっていかなければならないと思う。 (委員) 県事業を導入するにあたって、高齢化により３人以上の組合を作るのが難しくなっている。制度を変えるのは難しいと思うが、そういう実態がある。 (委員) 新規の方の話が多いが、すでに農業をしている旦那さんの横にいる奥さんをもう少し引っ張り出してくるような何か方策があればと思う。 (委員) 農畜産物の生産拡大の中で産地化を図るとあるが、どういう産地化を図ろうとするのかイメージできればと思う。どの品目でもいいと思うので、産地化を図るためにどんなことをしていくかが内容の中にあって欲しい (委員) 地産地消を推進するにあたり、各産直組合へ支援をしてもらえるような事業があればよい。地産地消の推進の中で、生産者が販路拡大や所得を上げるために、産直に出して地	いく。 (事務局) 経営の研修については、その通りだと思います。品目ごとの販売額は、総体に標準があるが、その人に合った経営の方針や助言は、それぞれ違ってくると思うので、随時検討していく。 (意見) (事務局) 女性のパワーには期待しているところが大きいが、なかなか、女性をターゲットにした会が少なくなっている部分もある。皆様のご協力を得ながら、女性が活躍できる場あるいは意見を出せる場は作っていきたいと思っている。 (事務局) 産地化は、そのものを作って、ある程度、内外に物を知らしめることができる、あるいは、それを基に経営が安定するというのが産地化と思っている。例えば、ブロッコリーが2026年から指定野菜になることから、新しい宮古の特徴であるブロッコリーの産地化、あるいはネームバリューができればと思っている。 (事務局) 各産直組合の経営が高齢化等により、いろいろと厳しい状況であることは理解しているが、今回のビジョンで支援する内容とすれば、軽トラ市の開催を項目として挙げた。
---	---

産地消をやるというのは良いと思うが、その産直をしっかりと維持していくために、ビジョンの中で産直組合をしっかりと支えていくようなところが入ってほしい。

(委員)

担い手の確保育成の取り組みについて、新規の方々にやや特化したような書きぶりになっていると感じる。認定農業者の方々への支援についても、何かしらあってもいいのではないか。また、新規就農者の育成のところに農地集積があるが、認定農業者の方々に集約していくという意味なのか。

産直組合を直接支援するのではなく、売り先として軽トラ市開催の支援ができればと思っている。

組合としての経営部分に関しては、それぞれ人件費や施設維持費等を抱えながら、農産物の販売や事務をするのは大変だと思うので、主体となる組合の状況を把握しながら、改善や支援できるものがあれば、検討していく。

(事務局)

6 ページの 5 つ目の地域の中心となる経営体の農地集約の関係ですが、認定農業者を含めて、その地域の農業の中心となる方という意味であるが、前後の文章を見ながら、適正な箇所に移し替えるなど検討させていただく。